

の謫を得てその職を擱はれた。その俳人としては北枝・秋の坊と親交があつた。元祿から享保の人。

**ゴントクジ 嚴徳寺** 珠洲郡大屋に在つて、眞宗東派に屬する。

**コンヌノ 紺布** 白山比咩神社所藏三宮古記に、正和元年三社臨時の馬上懸物として、上品絹・葛布・紺布等を送進すとの文書載せ、又文和三年の水引神人和興状案には、野市の紺搔と白山及び劍の紺搔との爭議に就いて記す所がある。紺搔は藍を原料とする染色業者であらう。又同書年月不詳の水引神人沙汰進分事條には、英田村紺一端・津幡村紺一端・森下村紺一端・山崎村紺一端・白山・劍敷地紺二端を寄進することなどが記されてゐて、絹以外如何に紺布の需要が多かつたかを知らしめられる。

**コンバルゴンベエ 金春權兵衛** ↓タケダゴンベエ 竹田權兵衛。

**コンバルリュウ 金春流** 前田利家の時以來重用せられた能樂の金春流は、京都の竹田權兵衛が加賀藩の大夫として祿を食み、松雖その他事ある時は金澤に下つて技を演じた。寛永十九年正月藩侯光高の在國して能樂を催した時、番組七番中の五番は權兵衛の演ずる所であつた。次いで綱紀は、藩内の能樂を賣生流に統一したが、尙依然として權兵衛の扶持を廢せず、子孫相承けて藩末に及んだ。綱紀の時の權兵衛は、初名平四郎、諱は廣貞。歳俸三百石を受けたものである。

**コンピラマキリ 金毘羅詣** 金澤に於ける金比羅順拜の寺院は左の如くである。縁日は十月十日であつた。

淺野川口

- 一 馬坂 天供院
- 二 柿木町 正教寺
- 三 田町 乾貞寺
- 四 馬坂 實相寺
- 五 古寺町 寶來寺
- 六 長田 成應寺
- 七 柳町 建立寺
- 八 卯辰 愛染院
- 九 並木町 天道寺
- 十 卯辰 乘龍寺

犀川口

- 一 三間道 圓教寺
- 二 寺町 願行寺
- 三 寺町 翠雲寺
- 四 川上 清立寺
- 五 川上 成勝院
- 六 藤棚 成福寺
- 七 欠原 金剛院
- 八 安房殿 慈光院
- 九 百姓町 長樂寺
- 十 犀川 寶久寺

**コンボウジ 金峰寺** ↓キンボウジ 金峰寺。

**コンヤザカ 紺屋坂** 金澤城石川門前から北の方に下る坂道で、今はこんや坂と呼ぶが、元祿六年の土帳にはこうや坂とある。昔館紺屋なる有名な染工が此の坂の邊に居住した故、坂を紺屋坂と呼び、坂下を紺屋町といふた。

**コンヤザカモン 紺屋坂門** 金澤城石川門前から紺屋坂に下る坂路の上に在つた門で、傍に番所があつた。一に紺屋坂腰掛脇御門ともいふ。又石川御門外腰掛脇御門と書いたものも見える。いづれにしてもこの門の東南側に登城供方の腰掛があつたからである。明治二年十二月之を撤した。

**コンヤマチ 紺屋町** コウヤ マチ 羽咋郡押水中庄に屬する部落。北陸七國誌に、天正十二年九月十一日佐々成政吾妻野に着き、天神山に陣を取り、士卒を遣はして紺屋町の民家を焼拂うたとある。能登名跡志には『紺屋町村といふに、昔弘法大師興へ給ふ水有。杖にて岩

サ

を押給へげ水出でしより、押井の水といへり。是を以て押水の名あり。又此村に岡部六彌太が城跡とて有。誤りにや。しかし此村に六彌太の子孫とて百姓に有。』と見える。

**サイアンジ 西安寺** 鳳至郡山田郷に屬する部落。邑内に最安寺があるから名を得た。明治八年十月八日、院内と併合して瑞穂と改稱した。

**サイアンジ 最安寺** 鳳至郡西安寺（今瑞穂）にあり、曹洞宗に屬し、高峰山と號する。年不詳月泉正禪の開基。能登名跡志に、『山田の郷は、昔長家の類葉に秀次といふ人住せし城跡あり。院内村に在り。位牌は西安寺村の西安寺といふ禪寺にあり。寺中に泰山府君の大木の櫻あり。花の頃は見物也。』と記する。

**サイイズ 才伊豆** もと甲斐の人。初め上杉景勝の臣で小田切庄左衛門と云ひ、次いで前田利常に仕へて二千石を受け、大坂の役に従ひ、元和五・六年頃の土帳に三千石とあり、後四千石に進み、老して道仁と稱した。その子監物の時、寛永十六年大聖寺侯の從士となり、三千石を受けた。

**サイイン 西因** もと肥前國松浦郡の人。齡十有四にして出家求道し、本郷を離れて台山に登り戒を受けた。その後年々歳々在々處々に難行苦行して休息することなく、遂に白山に到りて久修練行四十三年を経た。保安二

年六月西因大願を發して、筒笠神宮寺に十二口の夏籠を定置し、晝夜不斷に彌陀の寶號を念ぜしめ、又將に半丈六皆金色阿彌陀如來像を造り、精舎を立て、之を安置せんとし、藤原敦光代りてその事を文にした。本朝續文粹に載する所の白山上人縁起即ち是である。

**サイウンテイ 瀧雲亭** 協田二代九兵衛直能は千宗室の門弟であつたが、邸内金澤小尻谷の傍なる崖に築山・泉水などの露地を造り、茶室を建て、瀧雲亭と名付けた。其の地景甚だ幽雅で、古木生茂り、奇石怪巖聳え、瀧などもあつて世人之を賞玩したが、明治六年に取毀られた。

**サイエイジ 西榮寺** 江沼郡鹽屋にあつて、眞宗東派に屬する。

**サイエイジ 西永寺** 鹿島郡羽坂に在つて、眞宗東派に屬する。能登名跡志に、『此村の一向宗西永寺といふに、親鸞上人の御影自作の木像あり。』と記する。

**サイエンジ 西圓寺** 能美郡野田に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治十二年十二月寺號公稱の許可を得た。

**サイエンブンソウ 柴垣文章** 四冊、内一冊は續編である。柴垣大島桃年の文を集めたもので、古賀精里・安積良齋・松崎健堂・大槻清崇などの批正がある。

**サイオウジ 西應寺** 鳳至郡鶴入に在つて、眞宗東派に屬する。

**サイオンジ 西恩寺** 能美郡小松に在つて、眞宗東派に屬する。

**サイガハ 犀川** 石川郡奥三方岳の北麓に發し、犀瀧を下りて二又川といひ、北流して二又に至るとき、大門山の西麓に發する倉谷

を推給へげ水出でしより、押井の水といへり。是を以て押水の名あり。又此村に岡部六彌太が城跡とて有。誤りにや。しかし此村に六彌太の子孫とて百姓に有。』と見える。

**サイアンジ 西安寺** 鳳至郡山田郷に屬する部落。邑内に最安寺があるから名を得た。明治八年十月八日、院内と併合して瑞穂と改稱した。

**サイアンジ 最安寺** 鳳至郡西安寺（今瑞穂）にあり、曹洞宗に屬し、高峰山と號する。年不詳月泉正禪の開基。能登名跡志に、『山田の郷は、昔長家の類葉に秀次といふ人住せし城跡あり。院内村に在り。位牌は西安寺村の西安寺といふ禪寺にあり。寺中に泰山府君の大木の櫻あり。花の頃は見物也。』と記する。

**サイイズ 才伊豆** もと甲斐の人。初め上杉景勝の臣で小田切庄左衛門と云ひ、次いで前田利常に仕へて二千石を受け、大坂の役に従ひ、元和五・六年頃の土帳に三千石とあり、後四千石に進み、老して道仁と稱した。その子監物の時、寛永十六年大聖寺侯の從士となり、三千石を受けた。

**サイイン 西因** もと肥前國松浦郡の人。齡十有四にして出家求道し、本郷を離れて台山に登り戒を受けた。その後年々歳々在々處々に難行苦行して休息することなく、遂に白山に到りて久修練行四十三年を経た。保安二

年六月西因大願を發して、筒笠神宮寺に十二口の夏籠を定置し、晝夜不斷に彌陀の寶號を念ぜしめ、又將に半丈六皆金色阿彌陀如來像を造り、精舎を立て、之を安置せんとし、藤原敦光代りてその事を文にした。本朝續文粹に載する所の白山上人縁起即ち是である。

**サイウンテイ 瀧雲亭** 協田二代九兵衛直能は千宗室の門弟であつたが、邸内金澤小尻谷の傍なる崖に築山・泉水などの露地を造り、茶室を建て、瀧雲亭と名付けた。其の地景甚だ幽雅で、古木生茂り、奇石怪巖聳え、瀧などもあつて世人之を賞玩したが、明治六年に取毀られた。

**サイエイジ 西榮寺** 江沼郡鹽屋にあつて、眞宗東派に屬する。

**サイエイジ 西永寺** 鹿島郡羽坂に在つて、眞宗東派に屬する。能登名跡志に、『此村の一向宗西永寺といふに、親鸞上人の御影自作の木像あり。』と記する。

**サイエンジ 西圓寺** 能美郡野田に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治十二年十二月寺號公稱の許可を得た。

**サイエンブンソウ 柴垣文章** 四冊、内一冊は續編である。柴垣大島桃年の文を集めたもので、古賀精里・安積良齋・松崎健堂・大槻清崇などの批正がある。

**サイオウジ 西應寺** 鳳至郡鶴入に在つて、眞宗東派に屬する。

**サイオンジ 西恩寺** 能美郡小松に在つて、眞宗東派に屬する。

**サイガハ 犀川** 石川郡奥三方岳の北麓に發し、犀瀧を下りて二又川といひ、北流して二又に至るとき、大門山の西麓に發する倉谷